



令和4年度 中尾小学校便り

なかお

学力特集号

令和4年12月6日
北九州市立中尾小学校
校長 刈上 昇一

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

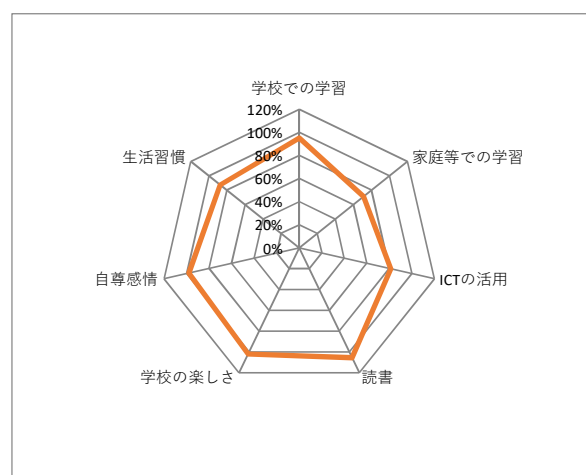
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	・国語科平均正答率は、全国平均正答率に近づき改善している。 ・「知識・技能」は全国比に近づき、「思考・判断・表現」についてはやや課題がある。	下回っている
算数	・算数科平均正答率は、全国平均正答率に近づき改善している。 ・「知識・技能」は昨年度と同程度であり、「思考・判断・表現」については、全国平均正答率に近づき改善している。	下回っている
理科	・理科平均正答率の全国に比べてやや課題があり、標準偏差が大きく個々の資質能力の差に課題がみられる。 ・「知識・技能」の平均正答率は全国より高く、「思考・判断・表現」に課題がみられる。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・読書週間の取組や学校図書館の積極的な運営等により、児童の読書時間が全国平均を上回り、特に2時間以上読書する児童が増加している。
- ・対人スキル等の取組により「人が困っているときは、進んで助ける」等の規範意識や「自分には、よいところがあると思う」等の自己有用感が向上している。
- ・学校の授業時間以外の普段の勉強時間が昨年度よりやや減少し全国平均より少なくなっている。より一層の意図的・計画的な家庭学習への取組の継続が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

昨年度までの主題研究等の取組や日々の授業に加え、学校生活での指導、生徒指導等の成果が出てきている。国語科や理科をはじめとする授業では、分かる、できる授業を実現し成就感・達成感を感じることができる授業に向けた取組をより一層進めるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

より一層の意図的・計画的な家庭学習への取組を継続し、称賛や励まし等による評価を通して適切な学習習慣が定着するようにする。
※ご家庭においても、お子様の家庭学習の時間の取り方、取り組み方等の学習状況の確認や励ましにより、家庭学習習慣の定着のご協力をお願いいたします。